

福岡歯科大学

医科歯科総合病院概要

2018

Fukuoka Dental College General Hospital for Medicine & Dentistry



福岡歯科大学医科歯科総合病院

病 院 の 理 念

私たちは、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、安全で質の高い思いやりのある病院をめざします。

病 院 の 基 本 方 針

1.患者中心の医療

患者さんの人格を尊重した優しさのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。

2.高度医療の提供

医科歯科総合病院として多職種が協力し、高度な医療を推進します。

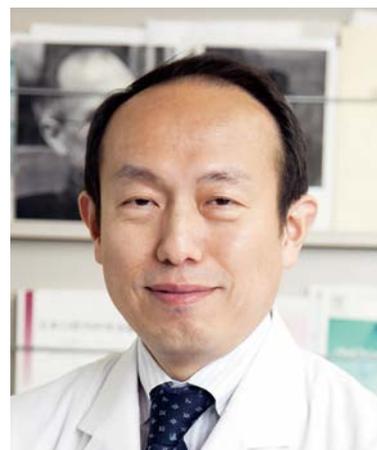
3.地域医療への貢献

地域の基幹医療施設として、地域包括ケアシステムに応じた連携医療を充実させます。

4.全人的医療を実践できる医療人の育成

高い倫理観を備え、患者さんの身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。

ご挨拶



病院長
池邊 哲郎

医科の病院として

本院は、23の医科診療科と4つの歯科診療科からなる総合病院です。常勤の医師は32名、歯科医師は246名です。標榜する歯科は、一般歯科、小児歯科、矯正歯科、歯科口腔外科の4つですが、歯科大学が母体ですので、その内容は、12の専門歯科に分かれています。本院はこれまで歯科大病院として昭和48年以来長年に渡って地域の方々にご利用いただいておりますが、平成17年から「医科歯科総合病院」として生まれ変わり、医科診療にも力を入れています。つまり本院は医科と歯科とが並立する全国でも稀な病院です。そのために、九州大学病院と福岡大学病院から優秀な医師を派遣していただき、両病院と密接な連携関係にあります。それぞれの診療科に専門性の高い医師がいますので、是非このパンフレットの内容を閲覧していただき、患者さんの症状に適合する医師を見つけていただきたいと思います。

「口腔医学」と「医科歯科連携」

本院では医科と歯科とが協力して一人の患者さんの健康に携わる「医科歯科連携」に力を入れています。それは近年お口の病気が全身の病気を悪化させたり、全身の病気の症状がお口に現れたりすることがわかってきたからです。歯科医師は医学の知識を身につけて患者さんの全身の病気に配慮しなければなりませんし、医師はお口の健康状態にも眼を向けなければなりません。このような考え方の嚆矢となったのが本学の故・田中健蔵前福岡学園理事長の提唱した「口腔医学」という学問体系です。現在の水田祥代理事長にも引き継がれて支援いただいております。「口腔医学」という学問を臨床の場で実践するあり方が「医科歯科連携」で、本院の大きな特徴です。同じキャンパスには平成9年に開学した「福岡医療短期大学(歯科衛生学科)」と平成29年に開学した「福岡看護大学」とがあり、歯科衛生士と看護師による新たな「医科歯科連携」も展開して行こうと考えています。

本院のちょっとしたアピール

平成29年に訪問歯科センターと内視鏡センターを開設いたしました。訪問歯科センターは、在宅—病院—老人施設間で医科歯科連携を展開し、地域包括ケアの一貫として他病院の周術期口腔管理にも貢献します。内視鏡センターでは、より高度で低侵襲の医療を目指して安心安全な医療を提供します。また、嚥下の専門家を備える耳鼻咽喉科と高齢者歯科を中心に、摂食・嚥下カンファレンスを院外の方にも開放して行っており、嚥下治療および摂食・嚥下リハビリに力を入れています。

目 次

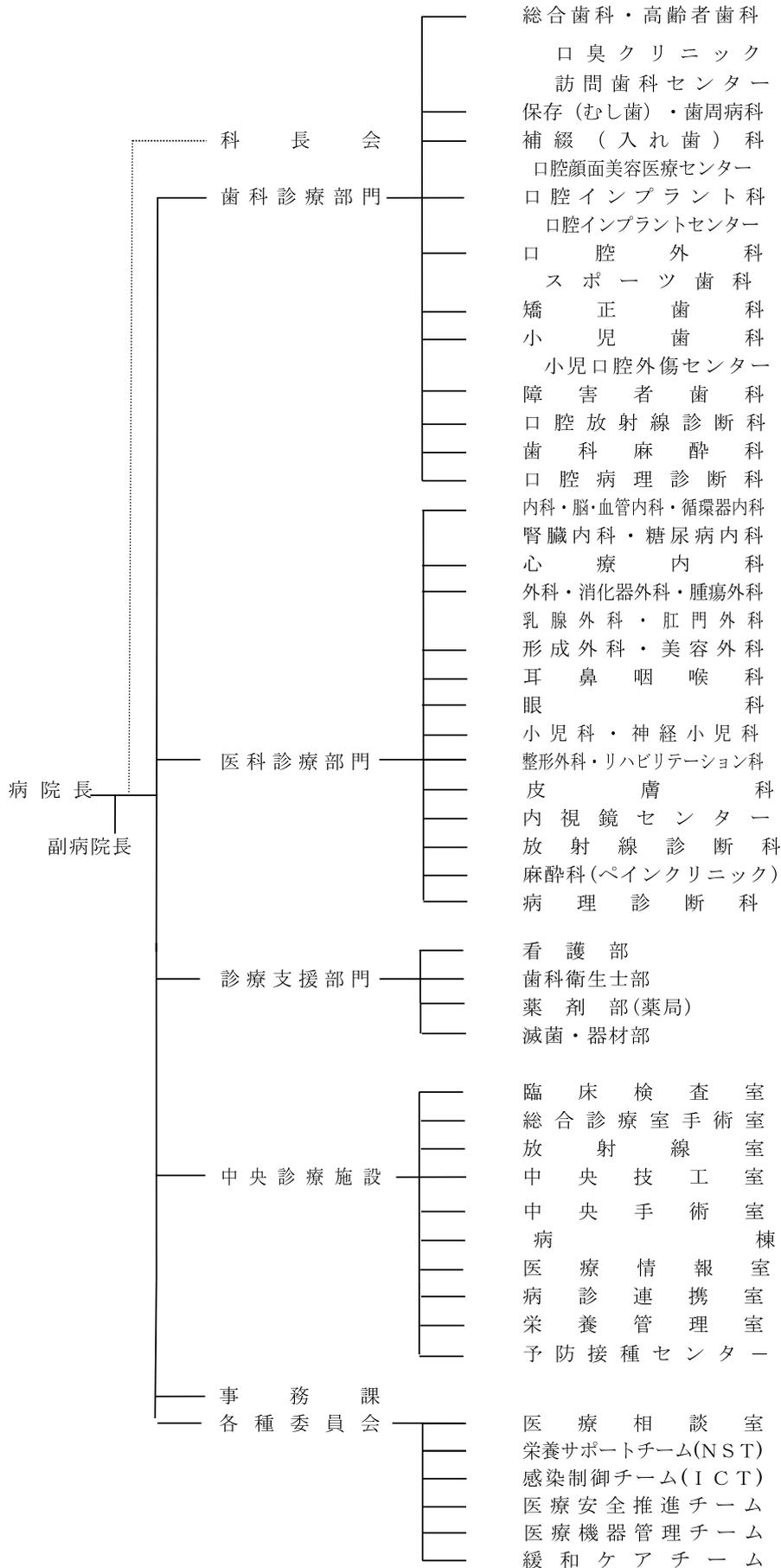
1. 沿革概要	4
2. 組織図	6
3. 管理者および役職員	7
4. 職員数	8
5. 病院の収入	9
6. 診療科別患者数	10
7. 診療科の紹介	11
8. 医療機関の承認・指定状況.....	30

1. 沿革概要

昭和47年	4月	1日	福岡歯科診療所開設 宮崎三雄教授 診療所長に就任
昭和47年	7月	27日	学校法人 福岡歯科学園寄附行為認可 福岡歯科大学の設置認可
昭和47年	10月	1日	松本洋一教授 初代附属病院長に就任
昭和47年	10月	23日	福岡歯科大学附属病院の開設認可
昭和48年	2月	21日	福岡歯科大学附属病院開設 (病床30床)
昭和48年	4月	1日	福岡歯科大学開学 附属病院歯科診療を開始
昭和49年	6月	1日	内科開設
昭和50年	4月	7日	歯科入院病棟開設
昭和50年	7月	1日	外科開設
昭和50年	8月	1日	基準寝具承認
昭和50年	11月	1日	基準給食承認
昭和51年	8月	24日	病床19床増設
昭和51年	9月	16日	内科、外科入院病棟開設
昭和52年	8月	1日	基準看護特1類承認
昭和52年	10月	1日	第1期生臨床実習開始
昭和53年	4月	1日	麻酔科開設
昭和54年	2月	5日	古本克磨教授 附属病院長に就任
昭和54年	8月	1日	病床1床増設 (合計50床)
昭和60年	4月	1日	松浦智二教授 附属病院長に就任
昭和62年	6月	1日	卒業直後臨床研修開始
平成元年	4月	1日	吉田 穰教授 附属病院長に就任
平成元年	10月	1日	予防歯科開設
平成元年	11月	1日	矯正歯科・小児歯科 診療科目の届出
平成2年	4月	1日	松尾 繁教授 附属病院長に就任
平成2年	6月	22日	病棟避難スロープ及び霊安室設置
平成3年	4月	30日	高齢・障害者歯科開設
平成5年	4月	1日	松本光生教授 附属病院長に就任
平成6年	4月	1日	富岡徳也教授 附属病院長に就任
平成7年	3月	20日	磁気共鳴コンピューター断層システム (MRI) の設置
平成8年	3月	25日	顎機能検査室の設置
平成8年	5月	28日	高速ヘリカルコンピューター断層システム (CT) の設置
平成8年	9月	24日	口腔インプラント科開設
平成8年	11月	1日	歯科口腔外科 診療科目の届出
平成9年	5月	27日	循環器科、消化器科 診療科目の届出
平成10年	4月	1日	松本光生教授 附属病院長に就任
平成11年	10月	1日	口臭クリニック・スポーツ歯科・訪問歯科開設
平成12年	3月	29日	病棟増改築工事の安全祈願祭施行

平成12年	4月	1日	羽生哲也教授 附属病院長に就任
平成12年	11月	30日	病棟増改築工事完成
平成13年	4月	1日	総合歯科開設
平成14年	4月	1日	本田武司教授 附属病院長に就任
平成15年	2月	1日	本川渉教授 附属病院長に就任
平成16年	2月	20日	病院3階総合診療室手術室改修工事
平成16年	3月	22日	病院玄関（エントランス）周り改修工事
平成16年	3月	30日	病院3階シミュレーション実習室改修工事
平成17年	1月	25日	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院へ改称
平成17年	2月	1日	磁気共鳴コンピューター断層システム（MRI）の更新
平成17年	4月	1日	心療内科開設、肛門科 診療科目の届出
平成17年	7月	14日	特定共同指導を受審
平成18年	2月	12日	カルテ検索システム導入
平成18年	9月	29日	社会保険医療担当者の個別指導の実施
平成19年	3月	23日	全身用コンピューター断層撮影装置（ホリウムCTスキャンシステム）の更新 歯科用CT 3D Xの設置
平成19年	4月	1日	石川博之教授 病院長に就任 耳鼻咽喉科・形成外科・口腔顔面美容医療センター開設
平成19年	7月	1日	病院情報システム（HIS）稼動（ホーダリングシステム開始）
平成20年	5月	19日	（財）日本医療機能評価機構認定証授与
平成21年	4月	1日	本川渉教授 病院長に就任
平成22年	4月	1日	松浦正朗教授 病院長に就任 眼科開設 放射線診断科、脳・血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、 消化器外科、腫瘍外科、乳腺外科、肛門外科、美容外科 診療科目の届出
平成23年	4月	1日	小島寛教授 病院長に就任
平成24年	5月	22日	病理診断科目の届出
平成25年	4月	1日	小児科、整形外科開設
平成25年	6月	7日	（財）日本医療機能評価機構更新認定
平成26年	4月	1日	阿南 壽教授、大星博明教授 副病院長に就任
平成26年	11月	3日	電子カルテシステム導入、運用開始
平成27年	4月	1日	池邊哲郎教授 病院長に就任
平成27年	10月	1日	皮膚科開設
平成28年	4月	1日	高橋 裕教授、篠原徹雄教授 副病院長に就任
平成28年	5月	27日	リハビリテーション科 診療科目の届出
平成29年	4月	1日	樋口勝規教授 副病院長に就任
平成29年	10月	1日	訪問歯科センター開設
平成29年	11月	1日	内視鏡センター開設
平成30年	4月	1日	阿南 壽教授、川野庸一教授 副病院長に就任
平成30年	5月	11日	（財）日本医療機能評価機構更新認定

2. 組織図



3. 管理者および役職員

病院長 阿南 壽

副病院長 城戸 寛史

副病院長 川野 庸一

副病院長 樋口 勝規

【診療科長】

2019年4月1日現在

診療科名	科長	診療科名	科長
総合歯科・高齢者歯科	廣藤 卓雄	内科・脳・血管内科・循環器内科・腎臓内科・糖尿病内科	大星 博明
訪問歯科センター	森田 浩光	心療内科	金光 芳郎
保存(むし歯)・歯周病科	坂上 竜資	外科・消化器外科・腫瘍外科・乳腺外科・肛門外科	池田 哲夫
補綴(入れ歯)科	松浦 尚志	内視鏡センター	池田 哲夫
口腔インプラント科	城戸 寛史	形成外科・美容外科	萩家 康弘
口腔外科	池邊 哲郎	耳鼻咽喉科	山野 貴史
矯正歯科	玉置 幸雄	眼科	川野 庸一
小児歯科・小児口腔外傷センター	尾崎 正雄	小児科・神経小児科	鳥巢 浩幸
障害者歯科	小島 寛	整形外科・リハビリテーション科	井上 敏生
口腔放射線診断科・放射線診断科	湯浅 賢治	皮膚科	古村 南夫
歯科麻酔科・麻酔科(ペインクリニック)	谷口 省吾	口腔病理診断科・病理診断科	橋本 修一

【施設長】

施設名	施設長	施設名	施設長
臨床検査室	大星 博明	病棟	山野 貴史
総合診療室手術室	城戸 寛史	医療情報室	大星 博明
放射線室	湯浅 賢治	病診連携室	池田 哲夫
中央技工室	城戸 寛史	栄養管理室	池邊 哲郎
中央手術室	谷口 省吾	予防接種センター	岡田 賢司

【部・課】

部局・課名	部・課長	部局・課名	部・課長
看護部	松尾 佳代	薬局	外尾 典子
歯科衛生士部	手嶋 直美	病院事務課	福永 重智

4. 職員数

【歯科医師】

〔H30.8.1現在〕

教授	准教授	講師	助教	医員	研修歯科医
17	13	17	37	54	32

【医師】

教授	准教授	講師	助教
11	3	4	18

【医療職等】

薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	歯科技工士	管理栄養士	視能訓練士
3	4	5	4	1	2

視能検査技師	理学療法士	言語聴覚士	ソーシャルワーカー	歯科衛生士	看護職員
1	3	2	1	33	47

臨床研修歯科医

プログラム数	募集定員	
	複合型	単独型
2	95	20

【採用数】

平成28年度	平成29年度	平成30年度
39	40	32

【協力型臨床研修施設数】

平成28年度	平成29年度	平成30年度
90	89	90

5. 病院収支（平成29年度）

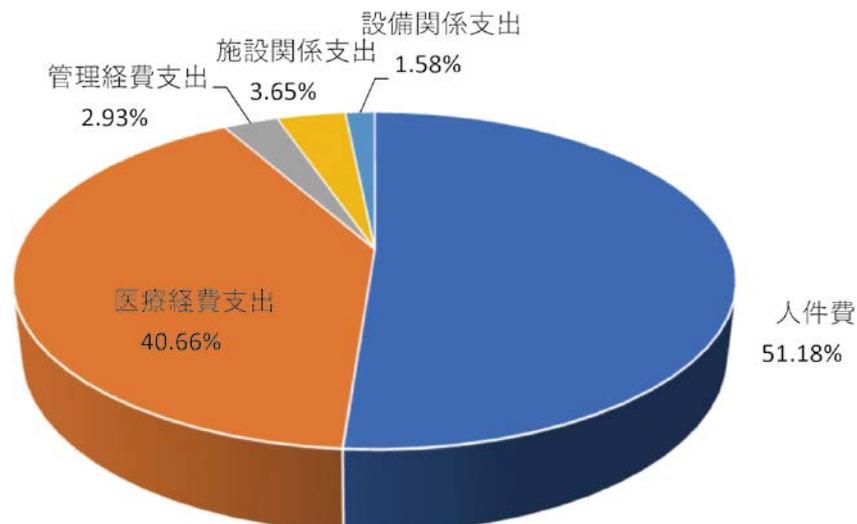
a. 収入予算

事 項	収入額（千円）	構成比（%）
補助金収入	31,706	1.95
付随事業・収益事業収入	2,617	0.16
医療収入	1,568,441	96.44
雑収入	23,587	1.45
合 計	1,626,351	100.00



b. 支出予算

事 項	支出額（千円）	構成比（%）
人件費	821,507	51.18
医療経費支出	652,713	40.66
管理経費支出	47,073	2.93
施設関係支出	58,665	3.65
設備関係支出	25,310	1.58
合 計	1,605,268	100.00



6. 診療科別患者数

(平成29年度)

診療科名	外 来		入 院	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合歯科	16,079	59.9	—	—
口臭クリニック	89	0.3	—	—
高齢者歯科	10,731	40.0	—	—
訪問歯科	2,735	10.2	—	—
保存（むし歯）・歯周病科	22,216	82.7	—	—
補綴（入れ歯）科	13,531	50.4	—	—
口腔インプラント科	7,539	28.1	15	0.0
口腔外科	15,482	57.7	4,303	11.8
スポーツ歯科	0	0.0	0	0.0
口腔顔面美容医療センター	1,349	5.0	0	0.0
矯正歯科	11,730	43.7	—	—
小児歯科	11,239	41.9	42	0.1
障害者歯科	4,992	18.6	37	0.1
歯科麻酔科	524	2.0	—	—
放射線科	15,338	57.1	—	—
歯 科 計	117,422	439.0	3,081	8.4
内科	15,385	57.3	1,085	3.0
小児科	3,122	11.6	—	—
心療内科	2,747	10.2	40	0.1
外科	3,977	14.8	866	2.4
整形外科	6,422	23.9	1,472	4.0
皮膚科	4,408	16.4	31	0.1
形成外科	1,825	6.8	62	0.2
耳鼻咽喉科	4,046	15.1	837	2.3
眼科	6,384	23.8	1,104	3.0
麻酔科	1,139	4.2	—	—
医 科 計	48,952	183.0	6,477	17.7
合 計	166,374	622	9,558	26.2

a 年度別患者数

外 来			入 院		
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
177,804	166,374	171,011	10,011	9,558	10,082

b 年度別1日平均患者数

外 来			入 院		
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
662	622	634	27	26.2	27.6

7. 診療科の紹介

内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科



科長 大星博明

【概要】

一般内科全体を診療していますが、特に脳卒中、心臓病、慢性腎臓病に対して、MRIやCT、超音波検査、生理検査などを迅速に行う体制が整っており、緊急入院にも対応した診療を行っています。これらの疾患の原因となる生活習慣病についても、二次性高血圧症の精密検査や糖尿病の治療・教育入院も行っており、特に糖尿病の合併症については精密検査の出来る体制を整えており、病診連携を基本とした丁寧な医療を提供することを心懸けています。

また、超高齢化社会に対応し、耳鼻科や高齢者歯科と共同して嚥下障害の精密検査・治療にも取り組んでいます。老人保健施設や指定介護老人福祉施設（特養）を関連施設として有しており、同施設への入所についても連携を密にした対応を行っています。

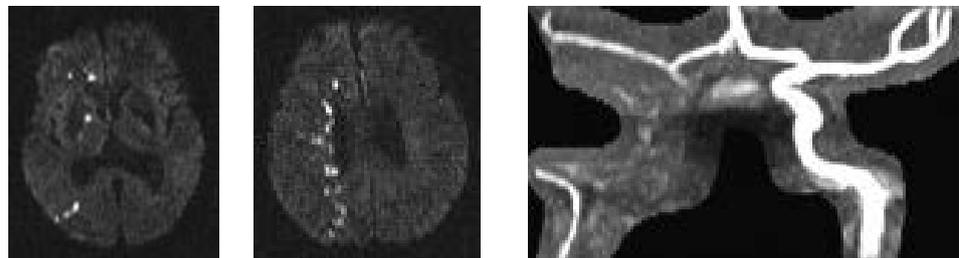
【対象疾患】

- ・ 脳卒中：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症など
- ・ 循環器疾患：治療抵抗性高血圧、二次性高血圧、虚血性心疾患など。
- ・ 腎臓病：無症候性血尿、蛋白尿、腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全など
- ・ 糖尿病：1型糖尿病、2型糖尿病、二次性糖尿病など

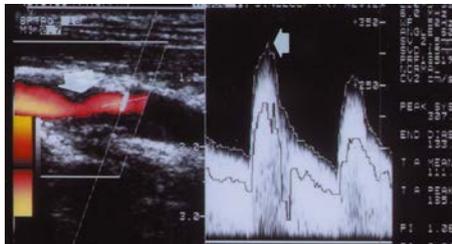
【アピール・得意分野】

- ・ 頭部MRIやCT、超音波検査などを迅速に行う体制が整っており、緊急入院に対応しています。
- ・ 糖尿病の治療・教育入院を行っています。
- ・ 常勤の内科系学会認定専門医が、それぞれの専門的診療にたずさわっています。
- ・ 超高齢化社会に対応して、高齢者が有する多くの疾患に対して、包括的な診療を行っています。

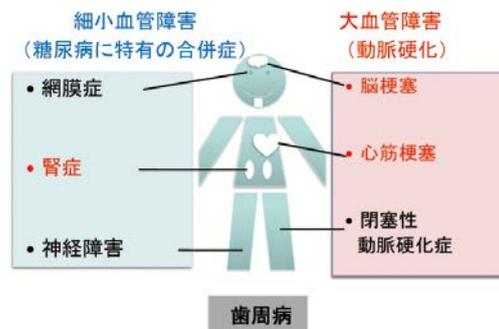
頭部MRI/MRA



頸部血管エコー



糖尿病教室での合併症評価



【学会認定施設】

日本老年医学会、日本高血圧学会

【学会認定専門医】

日本内科学会、日本脳卒中学会、日本循環器学会、日本高血圧学会、日本腎臓病学会、日本透析学会、日本糖尿病学会、日本老年医学会

外科・消化器外科・腫瘍外科・乳腺外科・肛門外科



科長 篠原徹雄

【概要】

地域の医療機関と密に病診連携をとり、迅速に入院・治療できるように心がけています。消化器や乳腺の腫瘍などの診断から手術・抗がん剤などの治療はもとより、胆石症・鼠径ヘルニアや肛門疾患（痔、痔瘻など）の診断治療、消化管内視鏡検査（胃カメラ・大腸カメラ）にも携わる守備範囲の広い診療科です。女性医師の診察日（火曜日、金曜日）もあります。

【対象疾患】

- ・胃癌，大腸癌，乳癌など悪性腫瘍
- ・胆石，胆嚢ポリープ，鼠径ヘルニア（脱腸），虫垂炎（盲腸）など良性疾患
- ・痔核（いぼ痔），痔瘻（あな痔），直腸脱などの肛門疾患



手術中の女性医師

【アピール・得意分野】

- ・当科は消化管疾患，肛門疾患，乳腺疾患の診断治療を行っています。乳腺や肛門疾患は特に女性医師による診察が可能です。
- ・虫垂炎や胆石・胆嚢炎の手術では，可能な限りおへそからの傷だけで手術しています（単孔式腹腔鏡手術）。
- ・胃や大腸のポリープの切除（ポリペクトミー，EMR など）や胃瘻造設・交換を行います。
- ・上部消化管内視鏡検査（年間400例）、腹部超音波検査（年間100例）、乳腺超音波検査（年間200例）、マンモグラフィー（年間600例）、下部消化管内視鏡検査（年間200例）



へそからの単孔式手術



単孔式虫垂切除術



単孔式胆嚢摘出術



腹腔鏡下低位前方切除術



腹腔鏡下低位前方切除術

【学会専門医】

日本外科学会専門医・指導医，
日本消化器内視鏡学会専門医，
日本消化器外科学会専門医・指導医，
日本大腸肛門病学会専門医・指導医，
外科周術期感染管理教育医，
日本消化器病学会専門医，
日本がん治療認定医，
日本乳癌学会認定医，
マンモグラフィ読影医

【学会認定施設】

日本外科学会関連施設，
日本消化器外科学会関連施設，
日本大腸肛門病学会関連施設，
外科周術期感染管理教育施設，
日本がん治療認定機構認定研修施設

外科・内視鏡センター手術症例数（2018年1～8月）		
部位	術式	症例数
食道	狭窄拡張術	1
胃	腹腔鏡下幽門側胃切除	3
	残胃全摘	1
結腸・直腸	内視鏡的粘膜下層切開剥離術	1
	腹腔鏡下結腸切除	3
肝臓	腹腔鏡下低位前方切除	2
	腹腔鏡下肝部分切除	1
胆嚢	胆嚢腔鏡下胆嚢摘出術	7
ヘルニア	内視鏡下根治術（TEPP, TAPP）	9
虫垂	腹腔鏡下虫垂切除術	1
肛門疾患	痔核根治術	2
	経会陰的直腸脱根治術	1
乳腺	乳癌根治手術	3
その他		2
Total		37

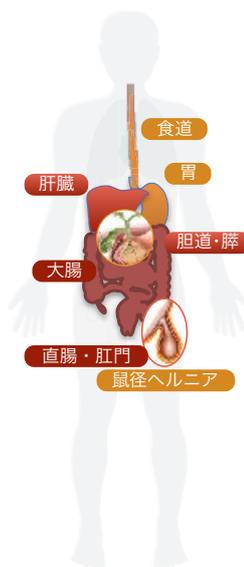
内視鏡センター



科長 池田哲夫

【概要】

- 内視鏡センターはでは通常の内視鏡検査に加えて内視鏡治療と内視鏡外科手術を行なっています。
- 内視鏡検査は食道・胃・十二指腸疾患に対する経口内視鏡（口からの胃カメラ）、経鼻内視鏡（鼻からの胃カメラ）、最近増加している大腸ガンなどの大腸疾患に対する大腸内視鏡、そして総胆管結石・胆石症などの胆道疾患にに対する胆道内視鏡検査を苦しくない様に鎮静下に行っております。
- 内視鏡は消化管の中に入り、大切な臓器の内側を目で見ることができる医療機器ですが、「見る」だけでなく、見ながら、病気の治療にも貢献しています。
胃・食道・大腸直腸の内視鏡的ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層はく離術（ESD）や胆道結石や胆道狭窄に対する碎石・採石およびステント留置が内視鏡治療に含まれます。
- 内視鏡外科手術は、従来法に比し侵襲が少なく、術後回復が早く、形容的に優れているなどの特長を有しております。当初は比較的手術操作が簡単な腹腔鏡下胆嚢摘出術に導入されましたが、手術手技の確立と医療機器の開発により手術適応の拡大と・内視鏡手術とは体腔へ内視鏡や専用の手術器具を挿入し、モニター上に展開される映像を見ながら行う手術の総称である。保険収載される手術術式が増え、胃、大腸の早期癌だけでなく、進行癌や肝臓、膵臓のがんにおいても標準術式として適応されるに至っています。また、化学療法や放射線治療と組み合わせた集学的治療として内視鏡外科手術が考慮されるようになり、今後益々の発展が期待されています。
- 内視鏡センターには日本消化器内視鏡学会（専門医、指導医）、日本内視鏡外科学会（技術認定医、技術審査員）、日本消化器外科学会（専門医、指導医）、日本外科学会（専門医、指導医）が所属しています。



外科・内視鏡センター内視鏡症例数（2018年1～8月）		
臓器	術式	症例数
上部消化管内視鏡		216
下部消化管内視鏡	ポリペクトミー・EMR	32
	内視鏡的粘膜下層切開剥離術 ESD	2
胆道内視鏡	ERC	26
	胆道鏡	2
小腸	ダブルバルーン	1
Total		363



池田哲夫

工藤健介

木村光一

整形外科・リハビリテーション科



科長 井上敏生

【概要】

四肢体幹の運動器疾患、特に足部疾患に対して、質の高い治療を行うとともに、日常診療全般において安全に留意した治療を行います。手術は基本的に入院にて行います。日帰り入院も行っています。リハビリテーションにも力を入れています。

【対象疾患】

運動器疾患全般の診察・治療を行います。足部疾患では外反母趾などの足趾の変形と疼痛、捻挫や軟骨障害等のスポーツ障害、変形性足部関節症や成人扁平足などの変性疾患などがあります。また、骨折や靭帯損傷などの外傷性疾患、変形性関節症等の変性疾患等に対し、小児から高齢者まで、診断・治療を行います。

【アピール・得意分野】

整形外科全般ですが、特に足部疾患です。外反母趾では体操指導・装具作成および手術による治療を行います。足関節疾患では、関節鏡（内視鏡）による治療も行います。また靴による痛み等に関する相談も受け付けます。疾患によっては、リハビリテーションプログラムを提供いたします。小児整形疾患の診断・治療も行っていますのでご相談下さい。

【以下の学会専門医・認定医がいます】

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、
日本整形外科学会認定スポーツ医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、
日本リハビリテーション学会リハビリテーション科専門医
財団法人日本体育協会公認スポーツドクター



外反母趾の矯正手術



小児科・神経小児科・予防接種センター



科長 鳥巢浩幸

【概要】

小児科・神経小児科・予防接種センターは、外来を中心に診療を行っています。当科では、一般的な小児外来診療に加えて、神経・発達外来と予防接種外来（福岡県予防接種センターに指定されています）を開設しており、「けいれんや発達障害の診療」、「かかりつけ医での接種が難しい児の予防接種」、「海外渡航に際しての予防接種」を行っています。地域の小児科の先生方や病院の先生方と緊密に連携をとりながら、子どもたちに“安心・安全の医療”が提供できるよう、スタッフ一同で取り組んでいます。

【対象疾患】

小児疾患一般

小児のけいれん性疾患

小児の発達関連疾患（発達の遅れ、落ち着きがない、集団での行動が難しい など）

予防接種（渡航時の接種を含む）

【アピール・得意分野】

- ・ 小児神経疾患
 - ・ 時間をかけて丁寧に問診を行い、神経学的診察を行います。
 - ・ 院内で小児の脳波検査、MRI 検査、知能検査（WISC）を行うことができます。
- ・ 予防接種
 - ・ 時間をかけて予防接種に関するカウンセリングを行います。
 - ・ 食物アレルギーなどで予防接種が難しい児に対応しています。
 - ・ 海外渡航の予防接種に関しては成人にも対応しています。
 - ・ 予防接種後の副反応（コッホ現象など）についても対応しています。

【学会専門医・認定医】

日本小児科学会専門医（4名） 日本小児神経学会専門医（1名）

日本てんかん学会指導医・専門医（1名） 日本感染症学会指導医・専門医（1名）

ICD（インфекションコントロールドクター）（1名） 子どもの心相談医（1名）

皮膚科



科長 古村南夫

【概要】

皮膚科疾患全般の診断と治療を行っています。皮膚皮下軟部組織腫瘍の生検と病理組織学的診断、画像診断（CT、MRI、軟部組織超音波検査）および外科的治療を行っています。

【対象疾患】

皮膚のヘルペス感染症（顔面帯状疱疹、ハント症候群、カポジ水痘様発疹症）や蜂窩織炎、重症薬疹の入院治療を行っています。最新治療として乾癬のアプレミラスト内服、アトピー性皮膚炎のデュピルマブ注射を開始しました。しみ・あざについてはカウンセリングと、レーザートーニングを含むQスイッチヤグレーザー治療が可能です。

【得意分野】

- ・アレルギーの精密検査は、歯科金属アレルギーのパッチテスト検査（要電話予約）、口腔アレルギー症候群や蕁麻疹、ラテックス・食物アレルギー、食物依存性運動誘発性アナフィラキシーの特異的IgE検査が可能です。
- ・難治性口内炎・歯肉びらんなど自己免疫性水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）が疑われる患者さんについては、血清中の自己抗体を検出するとともに、久留米大学病院皮膚科と連携して蛍光抗体法と血清免疫学的検査が可能です。

【学会認定施設】

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医2名、日本皮膚科学会認定レーザー・美容皮膚科指導専門医1名

眼 科



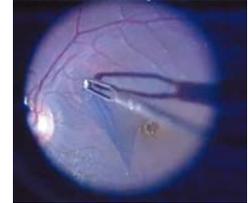
科長 川野庸一

【概要】

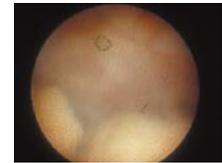
白内障・緑内障・糖尿病網膜症・網膜剥離などの眼疾患全般について、最新の検査・治療機器を用いて診断・治療をおこなっています。また外眼部（まぶたや眼窩）に生じる腫瘍性・炎症性疾患、眼瞼下垂や内反症、鼻涙管閉塞に伴う流涙症などについても対応しています。さらにぶどう膜炎などの眼科領域の炎症性疾患の診断と治療も行っています。

【対象疾患】

- 白内障
- 緑内障の薬物療法及び手術治療
- 糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症に対する薬物療法、レーザー治療、硝子体手術治療
- 加齢黄斑変性に対する薬物療法。
- 黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離に対する硝子体手術治療
- ぶどう膜炎に対する診断と薬物療法
- 眼瞼下垂、内反症、眼部腫瘍性疾患に対する手術療法
- 流涙症に対する涙道内視鏡を用いた涙管チューブ挿入術など。



25G 硝子体手術



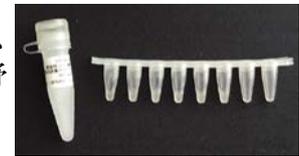
涙道内視鏡（結石）

【アピール・得意分野】

白内障手術は日帰り手術か入院手術を患者さんの状況に合わせておこなっています。全身麻酔での手術や1週間程度の入院での両眼手術も可能です。緑内障手術や網膜硝子体手術（血管新生緑内障や増殖性硝子体網膜症など重症例を含む）は入院でおこなっています。

ぶどう膜炎診療も得意としており、先進医療にも認定されているウイルス性ぶどう膜炎の迅速診断も始めました。

主な検査装置として、光干渉断層撮影装置（OCT）、超音波断層撮影装置、レーザー眼軸長測定装置、角膜形状解析装置、角膜内皮撮影装置、自動視野計があります。



迅速診断 PCR strip

【学会認定施設】

日本眼科学会



手術室



外来スタッフ

耳鼻咽喉科



科長 山野貴史

【概要】

耳鼻咽喉科は、外・中耳、鼻副鼻腔、咽喉頭、頸部などに発生する腫瘍、外傷、先天異常など種々の病気に対して、外科的治療を主にして対応しています。また、めまい、難聴、耳鳴り、顔面神経麻痺など保存的療法が主体の疾患に対しても診療に当たっています。一方、聴覚や平衡覚はもとより、味覚、嗅覚などの感覚器官、発声や嚥下などに関わる運動器官をも対象としており、その診断や治療を含む、いわゆるQOLの改善にも、積極的に努めている診療科です。

【対象疾患】

耳疾患（突発性難聴、顔面神経麻痺、急性中耳炎、滲出性中耳炎、耳管狭窄症）

鼻疾患（アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、術後性頬部嚢胞、鼻出血等）

咽頭疾患（慢性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、魚骨異物、アデノイド増殖症等）

喉頭疾患（声帯ポリープ、声帯麻痺、嚥下障害、急性喉頭蓋炎等）

頸部疾患（唾石、顎下腺 or 耳下腺腫瘍、頸部蜂窩織炎等）

【アピール・得意分野】

- ・嚥下障害に対する嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査を用いての経口摂取の可否や適切な食形態の選択
 - ・嚥下障害に対する集学的治療（入院・外来での嚥下リハビリテーション、嚥下機能改善手術、歯科との連携での舌接触補助床や軟口蓋挙上装置の作製等）
 - ・頭頸部癌術後や脳血管障害など構音障害に対するリハビリテーション
 - ・一側性声帯麻痺の嗄声への声帯内方移動術（声帯内脂肪注入や甲状軟骨形成術）
 - ・耳下腺顎下腺を含めた唾液腺疾患の手術
 - ・インプラント関連を含めた歯性上顎洞炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術
 - ・アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法
- 言語聴覚士2名が嚥下リハビリテーションのスタッフとして在籍しており外来入院のどちらでも対応できます。

【学会専門医】

日本耳鼻咽喉科専門医2名 補聴器相談医1名



嚥下内視鏡検査



嚥下造影検査

心療内科



科長 金光芳郎

【概要】

心療内科は「こころ」の面から「からだ」の症状を診る内科です。内科医としての技術を基礎に、いろいろな「こころ」と「からだ」の悩みを持っている患者の方々のお話をお聴きして、心身両面からの治療を行なっています。

【対象疾患】

心療内科でみることの多い病気には、高血圧症、糖尿病、肥満などの生活習慣病、気管支喘息、胃十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、頭痛、自律神経失調症などがあります。これらの病気で、起こる原因やなかなか良くなる原因に、心理社会的要因やストレスが関係しているものを総称して「心身症」と呼ばれています。

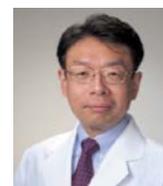
【アピール・得意分野】

心療内科では、内科的な疾患を中心に診療していますが、一般の内科と違うところは、身体をみながら常に患者さんの心や社会生活の面に注意を向けていることです。精神科と違うところは、心と同時に身体に配慮していることです。長引く症状があってもそれがストレスからくるものであるとか、心理的な原因であるということは、本人自身はなかなか気が付かないものです。症状が長く続く場合、検査でははっきりした異常が見られない場合、多彩な症状が繰り返し出る場合、などには一度心療内科に相談して下さい。当科においては、治療として、薬物療法に加えて、カウンセリング、自律訓練法、交流分析、認知行動療法、バイオフィードバック法などを行っています。

【学会認定施設】

日本心身医学会研修診療施設

美容・形成外科



科長 萩家康弘

【概要】

形成外科は人体の"形"を整えることを主な目的とした医学・医療です。

【対象疾患】

- 1) 老化にともなう変形に対する治療（抗加齢美容医療）
- 2) 「やけど」や「顔のケガ」のような外傷の治療
- 3) 褥瘡や治りの悪い傷（難治性潰瘍）など創傷管理・治療

【アピール得意分野】

加齢にともなうお顔の変形に対して全体の機能的観点から当科で専門的治療を行うことを、抗加齢（アンチエイジング）美容医療と呼んでいます。代表は、顔のしみ・しわ・たるみ、および老人性眼瞼下垂症（まぶたのたるみ）です。老人性眼瞼下垂は頭痛や肩こりなどの症状とも関係があり、手術により、これらの症状が改善する可能性があります。

形成外科・美容外科全般をカバーします。生活の質や変形を改善する手術は健康保険がきかないと思われていますが純粋な美容医療をのぞき、保険適用されるものもあるので診療内容だけでなく診療費についても、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。完全予約制で十分時間をお取りしてご説明いたします。

【学会認定医・専門医】

日本専門医機構形成外科領域専門医 1名



科長 山下潤朗

口腔顔面美容医療センター

【概要】

口腔顔面美容医療センターは、自然で美しい口元、自然で美しい笑顔の回復をゴールとします。上顎の前歯が出っ歯になってきた、下顎の前歯が重なってとび出てきた、前歯1本の歯並びが悪くて気になる、笑うと歯茎がいっぱい露出して恥ずかしい。そのような患者さんのお困りを取り除きます。まず歯周治療をしっかりと行って土台を健康で強固なものとし、次にM.T.M.（小矯正）、歯周外科処置、そしてインプラントや天然歯の補綴修復処置により、口元を自然で審美的なものへ変えていきます。また、美容外科医が、顔面領域のしわ、しみ、余分な脂肪、むだ毛を最新のレーザーを用いて治療します。

【対象疾患】

ガミースマイル、歯根露出、重度の歯周病、噛み合わせ崩壊、着色歯の治療、骨粗鬆症患者の抜歯

【アピール・得意分野】

英語での治療を提供しています。

- ・ガミースマイル治療
- ・重度な歯周病の治療
- ・歯周組織再生治療
- ・歯槽骨増生術
- ・セラミック修復による審美歯科治療
- ・補綴修復による全顎的な咬合再建
- ・根面被覆術

【学会認定医・専門医】

米国歯周病・インプラント外科専門医、日本臨床歯周病学会認定医、日本補綴歯科学会専門医 / 指導医

高齢者歯科



副科長 内藤 徹

【概要】

高齢社会を迎えた現在、心疾患や脳血管疾患、認知症など、容易に歯科治療を行うことが困難な合併疾患を持つ患者さんが多くなってきました。

高齢者歯科では、歯科治療中にこれらの疾患のために起こりうる問題に対応できるように、心電図等によって全身機能を管理したうえでの歯科診療や、他科との連携を取った治療を実践しています。また、通院が困難な患者さんへの訪問歯科診療にも取り組んでいます。

【対象疾患】

高齢者、特に全身疾患のある方のう蝕、抜歯、義歯作製、口腔ケア
訪問が必要な歯科疾患一般、摂食嚥下が困難な方嚥下評価と嚥下訓練



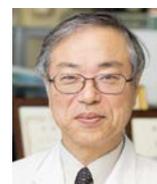
【アピール・得意分野】

医科主治医と連携を取りながら、基礎疾患がある患者さんのう蝕の治療、抜歯、義歯の作製といった一般歯科治療を行っています。車椅子のまま歯科治療を受けられる機材を用意しています。脳血管疾患などによる嚥下障害の評価やリハビリテーション、胃瘻造設患者さんの接触嚥下機能の評価等を行っています。コンパクトな訪問診療機材や小型の内視鏡を用意していますので、訪問先での食形態の検討も可能です。また、誤嚥性肺炎の予防のために口腔ケアを行っています。なお、病院や施設などで口腔ケアの講義や実習が必要な場合にも対応させていただきます。

【学会認定施設】

日本老年歯科医学会、日本歯科保存学会、日本歯科心身医学会

総合歯科・口臭クリニック



科長 廣藤卓雄

【概要】

総合歯科では、新患患者さんの初診業務と成人の虫歯、歯周病、入れ歯などの一般歯科治療を行っています。患者さんが自覚している口腔内の不調はもちろん、気付かずに悪くなっている部位はないかを調べ、十分な診査・診断の下、治療計画を立て総合的な治療を進めています。

当科では患者さんが複数の専門科を行き来することなく、一診療科にて安心して治療が受けられるよう、様々な分野の専門医が在籍し、その指導の下、治療を行っています。また、必要に応じて各専門診療科とも連携を取りながら、診療に当たっています。

【対象疾患】

成人の虫歯、歯周病、入れ歯などの一般歯科治療

【得意分野】

口臭が気になる患者さんの相談・診断・治療にあたる口臭クリニック、笑気鎮静法を利用した歯科治療、持病があって治療に注意が必要な患者さん、入院・手術・回復期からなる一連の周術期の患者さんや近隣の急性期病院の入院患者さんの口腔ケア・歯科治療も担当しています。

【学会認定施設】

保存（むし歯）科



副科長 阿南 壽

【概要】

保存（むし歯）科では、「なるべく歯を残すこと」と「なるべく痛みのない治療」をモットーに、主にむし歯の治療と歯の根の治療（根管治療）を行っています。

日本歯科保存学会の専門医および認定医を中心として、歯内療法を基盤とした包括的な歯科医療に取り組んでいます。また、他科および他院より御紹介頂いた難治性根尖性歯周炎の患者さんを担当しています。

【対象疾患】

象牙質知覚過敏症、むし歯、歯の破折、審美障害、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯内－歯周疾患など。

難治性根尖性歯周炎に対して、歯科用コーンビームCT検査および歯科用マイクロスコープを併用したマイクロエンド（精密根管治療）および歯根尖切除法などの外科的歯内療法を行っています。

【アピール・得意分野】

むし歯・審美障害の修復治療、歯髄炎・根尖性歯周炎に対する根管治療、歯内－歯周疾患の専門的治療を行っています。また、難治性根尖性歯周炎に罹患した患者さんの病態を分かりやすく説明できることを得意としています。さらに、歯科用コーンビームCT検査およびマイクロスコープを応用した再根管治療を毎日の臨床で行っています。

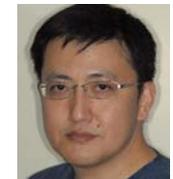
2017年度のマイクロスコープの使用件数は、303件でした。



【学会専門医・認定医】

日本歯科保存学会専門医2名・認定医6名、日本外傷歯学会認定医2名、日本歯周病学会専門医1名

補綴科（入れ歯科）



科長 松浦尚志

【概要】

補綴科とは、取り外し式の入れ歯、歯やインプラントの上に固定性のクラウン（かぶせもの）・ブリッジを製作し、かみ合わせを回復させ、咀嚼、発音、審美の改善を図る専門の診療科です。これらの治療は従来の方法に加えて、最新のデジタル技術（CAD/CAM）を用いた方法も駆使して行っています。また、難症例の総義歯（総入れ歯）、局部床義歯（部分入れ歯）、さらに口腔がん治療後の顎義歯（顎のない部分に入れる入れ歯）を他施設と連携しながら専門的に行っています。

【対象疾患】

- ・歯の崩壊や喪失によって生じる咀嚼障害、審美障害など
- ・がんの切除に伴う顎骨の欠損
- ・顎関節症、歯ぎしりなど



【アピール・得意分野】

- ・1本の歯から広範囲にわたる歯の治療によるかみ合わせや審美性の回復
- ・クラウン・ブリッジ、入れ歯、インプラントを用いた患者のニーズに応える治療

専門医による多数歯の治療によるかみ合わせの改善

【学会認定施設】

日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会

歯周病科



科長 坂上竜資

【概要】

歯周病は、中年以降の日本人の80%がかかっており、早期に治療を開始すれば進行を止められる病気です（下図参照）。歯周病科では、なるべく歯を抜かずに、残っている歯を保存できるような治療を心がけています。

治療においては、患者さんご自分で徹底的に歯磨きできるようになってもらうことが1番大切です。すでに歯ぐきの中にたまった汚れは、われわれがスケーリングとルートプレーニングを行って、歯石とプラーク（バイオフィルム）を取り除きます。

歯周病科では、必要に応じて歯周外科手術や、インプラント治療、かみ合わせの治療も行っています。

【対象疾患】

歯周病（歯肉炎、歯周炎）、歯周病にともなう歯の欠損部への治療、歯肉退縮など

【アピール・得意分野】

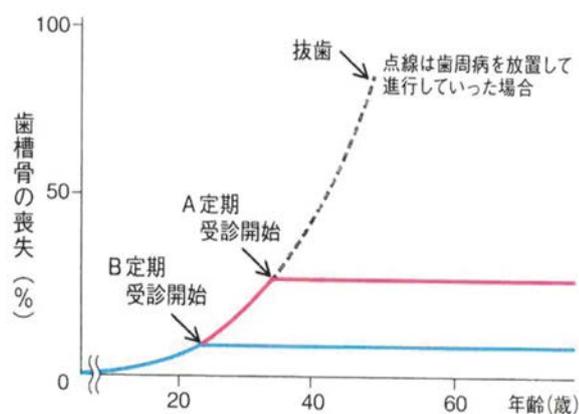
歯周組織の再生療法、審美的な歯周組織の回復、歯周病患者へのインプラント治療、歯周組織の減少した患者への補綴治療、長期にわたるメンテナンスを可能にする管理などを行っています。

【学会専門医・認定医】

日本歯科保存学会認定医・専門医・指導医（3名）、日本歯周病学会認定医・専門医・指導医（7名）、日本臨床歯周病学会指導医（1名）、米国歯周病学会専門医（1名）

【学会認定施設】

日本歯科保存学会、日本歯周病学会、日本臨床歯周病学会



（日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会：日本人はこうして歯を失っていく、坂上の図）

口腔インプラント科



科長 城戸寛史

【概要】

コンピュータによるインプラント手術のシミュレーションを行い、計画通りの手術を行うためにガイドドサージェリーを採用しています。国内で流通しているほとんどのインプラントシステムに対応可能であり、ご依頼のインプラントシステムで治療を行うことができます。また、サイナスリフトやGBRなどの骨造成のみのご依頼を受けることも可能です。また、条件が良い場合には「抜歯即時インプラント」や「即時荷重」などの対応も可能です。

【対象疾患】

歯の欠損（1歯欠損～無歯顎）

【アピール・得意分野】

- ・ドリルガイドを使用したインプラント埋入手術
- ・ナビゲーションシステムを利用したインプラント埋入手術
- ・CAD/CAM技術による上部構造の製作
- ・インプラント治療のための骨造成
- ・セラミックによる審美修復
- ・抜歯即時インプラント
- ・即時荷重

【学会専門医・認定医】

日本口腔インプラント学会認証医・専門医・指導医 5名、日本顎顔面インプラント学会専門医・指導医 2名、日本補綴歯科学会専門医・指導医 1名、International Congress of Oral Implantologist（国際インプラント学会）Fellow（認証医）・Diplomate（専門医）3名

【学会認定施設】

日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会

障害者歯科



科長 小島 寛

【概要】

日本障害者歯科学会認定医制度の研修施設である当科は、知的障害、発達障害（自閉スペクトラム症等）、精神障害、身体障害を伴う患者さんの歯科治療を行っています。通常の治療のほか、笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法、全身麻酔法を適用する設備やスタッフが整っています。

ほとんどの患者さんは当初の治療がひと段落した後も継続的に歯科的管理を受けることが多く、それを長続きさせるためには診察や検査に対する抵抗感を切り替えることが重要です。当科スタッフは、患者さんが安心して診療を受けられることを第一に考えています。

待合室は他の診療科から独立していますので、周囲を気にする必要がありません。スペースも広いので、車椅子やバギーでの移動や待機も楽です。

【対象疾患】

- ・知的障害者、発達障害者（自閉スペクトラム症等）の歯科疾患全般
- ・身体障害者（含、視覚障害者・聴覚障害者）の歯科疾患全般
- ・精神障害者の歯科疾患全般
- ・その他、心理的に特別な配慮が必要な患者さんの歯科疾患全般

【得意分野】

- ・歯科治療への抵抗感を改善するための行動変容技法の適用
(当科でもっとも重視している領域です。初診当初の歯科治療では全身麻酔等を適用するしかない患者さんであっても、定期検診や歯垢・歯石除去は身体抑制することなく診察できるよう、歯科診療を受けれてもらうトレーニングに力を入れています。)
- ・全身麻酔法による歯科治療
(平成29年度の実績では知的障害のある初診患者の約15%、発達障害のある初診患者の約20%に適用しました。)
- ・静脈内鎮静法による歯科治療
(知的障害、発達障害、脳性麻痺、精神疾患、異常絞扼反射のある方等に幅広く適用しています。)
- ・笑気吸入鎮静法による歯科治療
(酸素・笑気ガスを各ユニットに配管しており、いつでも使用可能です。)

【学会専門医・認定医】

日本障害者歯科学会専門医・認定医・指導医（8名）

【学会認定施設】

日本障害者歯科学会



矯正歯科



科長 玉置幸雄

【概要】

矯正歯科では、歯の並びのデコボコ、出っ歯、受け口などの咬み合わせの問題を治療します。歯の移動、顎成長のコントロール、手術的な顎骨の移動により、個々の患者様に合った理想的な咬み合わせにします。これにより、咀嚼、発音、唾下などの機能面が向上し、美しい歯並びによる磨きやすさや審美性が向上し、口腔に関する QOL が向上します。

【対象疾患】

叢生（デコボコ）、上顎前突（出っ歯）、反対咬合（受け口）などの咬み合わせの異常、唇顎口蓋裂患者の歯並び、上顎や下顎のアンバランスな成長、未萌出の永久歯など。

【アピール・得意分野】

成長期における顎成長のコントロール、萌出異常歯に対する萌出誘導、口呼吸や口唇・舌の問題に対する筋機能訓練 (MFT)、上下顎骨の3次元的なズレに対する外科的矯正治療、福岡大学形成外科との連携による口唇裂・口蓋裂の出生時からの顎矯正治療、歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正治療、補綴前矯正や部分矯正などを行います。

日本矯正歯科学会の認定医または指導医の資格を持つスタッフがカウンセリングを行い、矯正治療のメリットと治療上のリスクについて十分ご説明を行ってから治療を開始します。

【学会認定施設】 日本矯正歯科学会

訪問歯科センター

科長 森田 浩光

【概要】

介護施設に入所中で身体的理由により通院ができない方、ご自宅にお住まいで寝たきりなどのために歯科診療所に行くことができない方、歯科のない病院（主に提携先病院）に入院中でお口の問題をお持ちの方やがん治療（手術・抗がん剤治療・放射線療法）をする方などにたいして、当院から診療器材を持参して歯科治療を行います。

当院から16km以内の地域に居住の方が対象となります。介護施設などで、入所者の歯科治療や、介護スタッフの口腔ケアの講習なども行います。

ただし、定期的に医科（内科、循環器科など）に通院されている方は対象になりません。

【対象疾患】

口腔ケアや応急処置をはじめ、体調が安定している方にはむし歯の治療、抜歯、義歯の作製といった一般歯科治療を行います。また、飲み込みの悪い方、ムセのある方の嚥下の検査やリハビリも行います。ご自分で歯磨きのできない方のご家族への口腔ケアの指導、介護施設のスタッフの方への講習も行います。

【アピール・得意分野】

介護施設入居中や在宅療養中の高齢者の口腔ケア・歯科治療だけでなく、通院困難な障害者の方や主に提携先急性期病院入院中の方の口腔ケア・歯科治療や応急処置を患者様の病態に応じて専門診療科やかかりつけの医師・歯科医師と連携して行います。

【学会認定施設】 日本有病者歯科医療学会、老年歯科医学会

小児歯科・小児口腔外傷センター



科長 尾崎正雄

【概要】

小児歯科は、むし歯の治療ばかりでなく、お子様のお口の中のすべての疾患を診断し小児歯科もしくは他科と協力してお子様にとって最善の治療を行います。まず来院されたお子様がどのように問題を抱えているかお子様と保護者の皆様からお聞きします。そしてお子様の口の中の健康状態をチェックし、問題点をみつけます。それから治療の優先順位を考えながら保護者の皆様と治療方針を決定していきます。例えば、むし歯の治療を目的とした患者様では、どうすれば怖がらずにスムーズな治療ができるか、また、むし歯予防が出来るかを豊富な写真資料をみながら相談していきます。そして、治療終了後は、むし歯が再発しないように定期管理を行いながら、お口の健康が保たれているか、また、歯列や口腔機能が正しく発育しているかを診査していきます。そして問題がみつければ、より詳しい検査を行い、対処していきます

【対象疾患】

う蝕（むし歯）、口腔機能障害、歯列発育異常、外科的疾患、軟組織疾患、口腔外傷

【得意分野】

1. 全身麻酔

治療が困難な低年齢児に対して全身麻酔下での集中歯科治療や外科的処置を行っています。

2. 発育診断と育成治療

頭部エックス線や歯列模型を用いて顎と歯列の発育診断し、最善の治療方法をアドバイスします。また、口腔機能障害の診断、治療も行っています。

3. 口腔外傷

最近では口の中を外傷して来院されることが多く、歯を破折したり脱臼させている小児が多くなってきました。私達の小児歯科では、口腔外傷に関する多くの経験と知識を元に、2018年10月より小児口腔外傷歯センターを設立いたしました。これにより外傷に関わる全ての医科と歯科が協力して対応できるようになりました。より安全で歯大事な歯を残す治療を行っています。

【学会認定施設】

公益社団法人日本小児歯科学会認定指導施設

日本小児口腔外科学会認定指導施設



外傷による永久歯の破折



小児歯科診療室での診療風景

麻酔科・ペインクリニック



科長 谷口省吾

【概 要】

手術や歯科治療のための全身麻酔、通常では困難な歯科治療を安心して行うための精神鎮静法、および痛みや麻痺の治療を行うペインクリニックが麻酔科の主な業務です。

【対象疾患】

- ・全身麻酔 医科・歯科の外科系各科の手術、小児歯科・障害者歯科の歯科治療
- ・精神鎮静法 歯科治療恐怖症、異常絞扼反射、高血圧や心疾患などの全身疾患により通常では実施が困難な歯科治療を安心して受けられるようにします。
- ・ペインクリニック 三叉神経痛、帯状疱疹、顔面神経麻痺、腰痛、肩こりなど、全身の痛みやしびれの治療を神経ブロックや薬剤療法、電気治療により行います。

【アピール・得意分野】

日本麻酔科学会認定麻酔科専門医、日本歯科麻酔学会認定歯科麻酔専門医を中心に麻酔管理や痛みの治療を行っています。また、一次救命処置の講習も行っています。



病理診断科



科長 橋本修一

【概要】

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断（例えば口腔癌などの癌病変、あるいは結核・肺炎などの炎症性病変など）および活動性評価（例えば癌では浸潤度、転移の有無など、結核・肺炎では菌の増殖や痰などへの排菌の有無など）を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を定めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。病理診断科では、福岡歯科大学医科歯科総合病院として求められる質の高い病理診断を行うことで患者によりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。

【対象疾患】

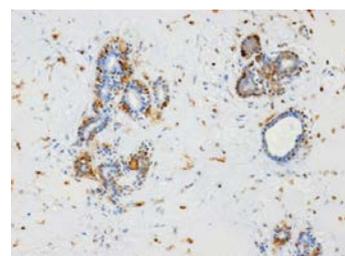
医科・歯科領域のすべての疾患を対象に、各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。また、病理解剖による死因のより詳しい解析も行っています。

【アピール・得意分野】

病理および口腔病理専門医のダブルチェック体制による正確、迅速な診断に心がけるとともに、患者情報の機密漏洩防止にも十分注意を払っています。また、臨床科との症例検討カンファレンスや日本病理学会への参加を通じて病理専門医としての能力の向上に努め、医療の向上を目指しています。さらに、口腔癌など癌の発生、進展についての機序の解明を目指した臨床病理学的研究を推進しています。

【学会専門医・認定医】

日本病理学会専門医・指導医（2名）、日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医（2名）、日本臨床細胞学会認定 細胞診専門歯科医（1名）、日本呼吸器学会専門医（1名）、日本外科学会認定医・認定登録医（1名）、死体解剖資格認定医（2名）、日本障害者歯科学会・認定医（1名）



唾液腺腫瘍の免疫染色像

8. 医療機関の承認・指定状況

1 医療機関の開設等

区 分	開設等年月日
医療法に基づく病院開設	昭和48年2月21日
臨床修練指定病院	昭和63年10月15日
日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	平成20年5月19日 (平成25年6月7日更新)
福岡県予防接種センター 指定	平成28年4月1日

2 学会認定

認定施設名	認定施設名
日本外科学会	日本補綴歯科学会
日本消化器外科学会	日本顎関節学会
日本食道学会	日本口腔顔面痛学会
日本眼科学会	日本老年歯科医学会
日本心身医学会	日本障害者歯科学会
日本老年医学会	日本矯正歯科学会
日本高血圧学会	日本小児歯科学会
日本歯科保存学会	日本歯科放射線学会
日本歯周病学会	日本歯科麻酔学会
日本口腔インプラント学会	日本口腔外科学会
日本顎顔面インプラント学会	日本がん治療認定医機構

3 施設基準届出

基本診療料	地域歯科診療支援病院歯科初診料		(病初診) 第25号
	歯科外来診療環境体制加算		(外来環) 第39号
	歯科診療特別対応連携加算		(歯特連) 第20号
	一般病棟入院基本料	10対1入院基本料	(一般入院) 第5号
	診療録管理体制加算2		(診療録) 第215号
	感染防止対策加算2		(感染防止2) 第104号
	退院調整加算		(退院) 第240号
	救急搬送患者地域連携受入加算		(救急受入) 第113号
	地域歯科診療支援病院入院加算		(地歯入院) 第6号

特掲診療料	がん性疼痛緩和指管理料		(がん疼) 第226号
	がん治療連携指管理料		(がん指) 第412号
	薬剤管理指管理料		(薬) 第412号
	歯科治療総合医療管理料		(医管) 第529号
	在宅患者歯科治療総合医療管理料		(在歯管) 第90号
	検体検査管理加算 (I)		(検I) 第308号
	神経学的検査		(神経) 第175号
	歯科画像診断管理加算1		(画歯) 第4号
	歯科画像診断管理加算2		(画歯) 第2号
	遠隔画像診断		(遠隔) 第7号
	CT撮影及びMRI撮影		(C・M) 第652号
	大腸CT撮影加算		(大腸C) 第37号
	無菌製剤処理料		(菌) 第132号
	運動器リハビリテーション (II)		(運II) 第703号
	脳血管疾患等リハビリテーション (III)		(脳III) 第283号
	呼吸器リハビリテーション (II)		(呼II) 第121号
	歯科口腔リハビリテーション料2		(歯リハ2) 第135号
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算		(造設前) 第26号
	う蝕歯無痛の窩洞形成加算		(う蝕無痛) 第56号
	CAD/CAM冠		(歯CAD) 第732号
	手術時歯根面レーザー応用加算		(手術歯根) 第23号
	歯科技工加算		(歯技工) 第337号
	網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いる)		(硝切) 第16号
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術		(ペ) 第147号

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	(通手) 第301号
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術(胃瘻造)	(胃瘻造) 第57号
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	(胃瘻造嚥) 第81号
歯周組織再生誘導手術	(GTR) 第153号
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	(人工歯根) 第8号
麻酔管理料1	(麻管) 第85号
口腔病理診断管理加算1	(口病診1) 第1号
クラウン・ブリッジ維持管理料	(補管) 第747号
歯科矯正診断料	(矯診) 第95号
顎口腔機能診断料	(顎診) 第1号

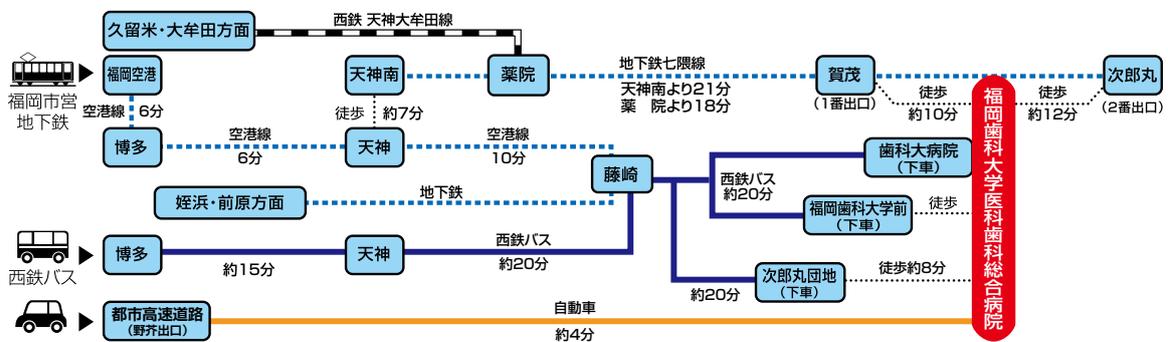


大駐車場完備(150台)

- 広い駐車場なので、待ち時間がなく駐車できます。ご利用下さい。



交通のご案内 (主要な経路)



福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
 電話 (092) 801-0411(代) FAX (092) 801-0459

ホームページアドレス <http://www.fdcnet.ac.jp/hos/>

(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡歯科大学医科歯科総合病院

www.fdcnet.ac.jp/hos/

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号

TEL 092-801-0411 FAX 092-801-0459

E-mail: hos@college.fdcnet.ac.jp